

＝プレスリリース＝

平成27年5月26日

いわて景気ウォッチャー調査結果  
—平成27年4月調査—

標記について、概要を取りまとめましたので公表いたします。  
なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」27年6月号に掲載予定です。

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号  
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人岩手経済研究所  
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 菊池 洋介)  
TEL 019-622-1212

**岩手経済研究所**

# < 調査結果の概要 >

## 1. 県全体の状況

現状判断、先行き見通しとも50を下回る

### (1) 現状判断 ～5期（1年3カ月）連続で50を下回る～

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は46.5と前回（43.9）に比べ2.6ポイント上昇したものの、景況感の分かれ目とされる50を5期（1年3カ月）連続で下回った。県内の景気ウォッチャーは、消費増税の影響は弱まったが、実質賃金の目減りから消費マインドが低下していることや円安による輸入品の高騰などから、景気の動きは弱いと感じている。

回答の構成比では、「良くなっている」「やや良くなっている」が16.8%（前回17.2%）と僅かに減少したが、「変わらない」は54.5%（同47.5%）と増加し、「やや悪くなっている」「悪くなっている」は28.7%（同35.4%）と減少した（図表1、2）。

分野別では、家計関連指数が46.0（同42.4）、企業関連指数は45.8（同44.8）と上昇したが50を下回り、雇用関連指数は52.8（同52.8）と2期連続で50を上回った。

家計関連部門では、地元企業の賃上げが進んでいないことから消費者の購買意欲が低下しているなど、消費マインドの低下を指摘する回答が多くみられた。企業関連部門では、円安が経営を圧迫しているとの声があり、雇用関連部門では、職種に偏りがみられるが、求人数は増加傾向であるとの回答があった。

### (2) 先行き見通し ～3期（9カ月）連続で50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行きに対する判断指数は47.8と前回（46.5）に比べ1.3ポイント上昇したものの、50を3期（9カ月）連続で下回った。実質賃金の目減りから消費マインドがさらに低下する懸念や人手不足の深刻化などから、弱い動きが続くとみている。

回答の構成比では、「良くなる」「やや良くなる」が19.8%（前回20.2%）と僅かに減少し、「変わらない」は51.5%（同49.5%）と増加し、「やや悪くなる」「悪くなる」は28.8%（同30.3%）と減少した（図表3、4）。

分野別では、家計関連指数が47.8（同48.1）、企業関連指数は47.9（同40.6）、雇用関連指数は47.2（同50.0）といずれも50を下回った。

プレミアム商品券の効果を期待する回答があった一方、地元の中小企業は賃上げが期待できないことや生活必需品の値上がりから消費マインドの低下を懸念する回答もあった。

## 2. 地域別の状況

地域別では、現状で全ての地域が50を下回り、先行きでは県央地域が唯一50を上回った（図表5）。

現状判断は、県央地域47.2（前回47.1）、県南地域46.7（同43.1）、沿岸地域47.2（同43.1）、県北地域41.7（同37.5）と上昇したが、いずれも50を下回った。

先行き判断は、県央地域が50.7（同45.7）と50を上回ったが、県南地域47.4（同45.1）、沿岸地域45.8（同47.2）、県北地域41.7（同52.5）と他の3地域は50を下回った。

県央地域では、来年開催予定の岩手国体が好影響となることを期待しているとの声があった。沿岸地域では、人手不足が続いていることを懸念する回答があり、県北地域では、地方の中小企業では賃上げが難しいとの回答があった。

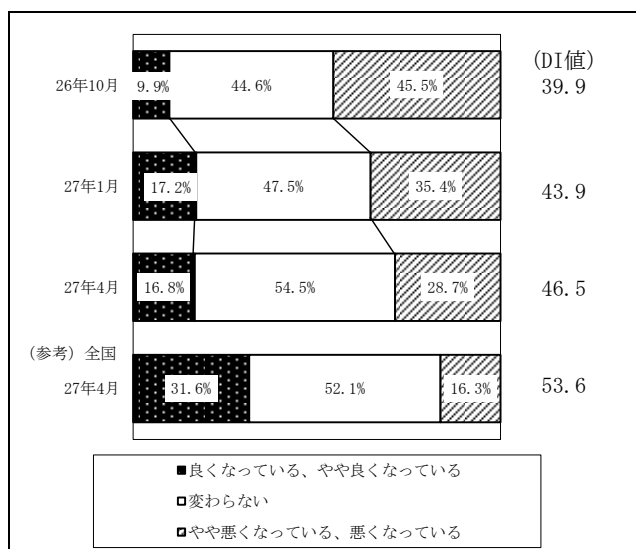
（ウォッチャーのコメントは参考1、数値については参考2、調査要領については参考3をそれぞれご参照ください。）

## 【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 関連	良	リピーターを中心に来店客が増加している。客単価も増加し、売上は順調に推移している。 (県南：飲食店)
		やや良	1～3月に店をリニューアルした効果で来店客が少し増加したと感じている。現時点では期待以上の売上には繋がっていないが、今後例年を上回る売上を期待している。 (県央：観光施設)
		不変	土地、建物ともに物件の動きが弱いままである。消費増税の影響は落ち着いてきている。 (県央：不動産仲介業)
		不変	お客様から料金の問い合わせが多く、料金にシビアになってきていると感じる。客層は若者が少なく、退職した年金受給者が多くなってきている。(県南：ゴルフ場)
		やや悪	花見シーズンに入ってから一時的に良くなったが、歓送迎会等の時期でも客数が減少している。1キロ未満で乗車するお客様が多く、長距離移動は夜に数名程度と少ない。 (県南：タクシー業)
		やや悪	賃上げがない地元企業に勤務する消費者は購買意欲が薄れてきており、必要以上に買い物をしない。(県北：小売業)
	企業 関連	不変	給与の額が変わらないなど景気が良くなっている実感はなく、何も変わらない状況である。収益面は円安の影響により原料が高騰し悪化している。(県南：製造業)
		やや悪	新年度の公共工事の入札までの間は受注が少なく、手持ちの工事量が減少している。 (県北：建設業)
	雇用 関連	不変	求人倍率は改善されてきているが、新卒の正社員や希望者の多い事務職の求人数が伸び悩んでいるなど職種に偏りがあり、未だ求人難と感じている。(県央：人材派遣業)
		不変	復興関連で建設業の求人数は多いが、他の業種は変わっていない。沿岸部では人手不足の状態が続いている。(沿岸：学校就業担当)
先 行 き	家計 関連	良	春になり例年より暖かくなってきたため人の動きが出てきている。5月以降に新たなイベントを多数予定しており今後に期待したい。(県南：観光施設)
		やや良	消費増税の反動減で落ち込んだ昨年と違い、前年越えで推移するとみている。株高等で国内経済も回復基調にあると判断しており、極端なマイナス要因は見当たらない。 (沿岸：自動車販売整備業)
		不変	6月までは変わらないが、7月以降はプレミアム商品券が発行される予定であり、一時的に良くなると思われる。(県南：小売業)
		不変	大企業は株価が上昇し、賃上げができていく企業も多いが、地方にはなかなか還元されてこないのではないかと。(県北：ガソリンスタンド)
		やや悪	燃料、飼料代ともほぼ横ばいで推移し大きな変化はないが、北陸新幹線開業の影響で団体の観光客が減少しないか懸念している。(県央：観光施設)
		やや悪	必要な物以外は買わないという消費者の意識を感じる。沿岸部では地元企業の賃上げがあまり期待できず、生活必需品の値上がりもあることから消費者の購買意欲がさらに低下すると思われる。(沿岸：大型小売店)
	企業 関連	やや良	売上が数カ月間順調に伸びてきている。新商品を生産する予定であり、今後売上増加が見込める。(県南：製造業)
		やや悪	大企業は業績が良いかもしれないが、中小企業の実態はどうか。一次産業はいつ景気が良くなるのか分からない。(県央：酪農家)
	雇用 関連	不変	求人数は横ばいと高止まりしたままである。人手不足の状況は今後も続くと思込んでいる。(県央：学校就業担当)
		不変	4月は売上が減少する見通しであるが、来年開催予定のいわて国体などが好影響となることを期待している。(県央：求人広告担当)

## 【参考2】

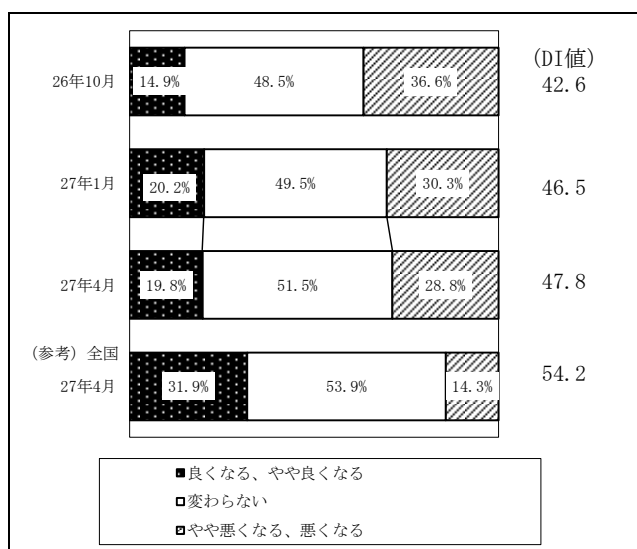
図表1 回答構成比（現状判断）



図表2 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	26年10月	27年1月	27年4月	増減
合計	39.9	43.9	46.5	2.6
家計関連	38.6	42.4	46.0	3.6
小売関連	37.5	38.7	42.0	3.3
飲食関連	31.8	38.6	53.6	15.0
サービス関連	42.6	48.5	43.1	△ 5.4
住宅関連	43.8	50.0	53.1	3.1
企業関連	41.3	44.8	45.8	1.0
雇用関連	44.4	52.8	52.8	0.0

図表3 回答構成比（先行き見通し）



図表4 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	26年10月	27年1月	27年4月	増減
合計	42.6	46.5	47.8	1.3
家計関連	42.4	48.1	47.8	△ 0.3
小売関連	42.5	48.4	43.8	△ 4.6
飲食関連	38.6	47.7	57.1	9.4
サービス関連	45.6	44.1	47.2	3.1
住宅関連	40.6	57.1	46.9	△10.2
企業関連	45.2	40.6	47.9	7.3
雇用関連	36.1	50.0	47.2	△ 2.8

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	26年10月	27年1月	27年4月	増減	26年10月	27年1月	27年4月	増減
合計	39.9	43.9	46.5	2.6	42.8	46.5	47.8	1.3
県央地域	40.3	47.1	47.2	0.1	41.0	45.7	50.7	5.0
県南地域	37.8	43.1	46.7	3.6	44.6	45.1	47.4	2.3
沿岸地域	41.7	43.1	47.2	4.1	37.5	47.2	45.8	△ 1.4
県北地域	42.5	37.5	41.7	4.2	52.5	52.5	41.7	△10.8

## 【参考3】

# ＜ 調査要領 ＞

## 1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

## 2. 調査時期

調査は平成27年4月に実施した。

## 3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを敏感に観察できる立場の方々110名への電話、郵送による聴取（図表6、7）。

図表6 調査対象者の分野・業種

分野 (調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計関連 (76名)	
小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
飲食関連 (16名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業関連 (24名)	製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)	人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

図表7 調査対象地域の区分

地域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (39名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (42名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ヶ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

## 4. 回答状況

有効回答数 101

回収率 91.8%

## 5. 指数（D I 値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ図表8のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてD I 値（Diffusion Index）を算出する。D I 値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

図表8 指数（D I 値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0